


子供たちに未来の創り手となる
ために必要な資質・能力を育む

外国語科における 指導と評価の 一体化を目指して

＜実践事例＞

令和4年3月
東京都教育委員会



はじめに

小・中学校学習指導要領（以下、「学習指導要領」という。）では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に沿って再整理され、明確に示されました。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することが一層求められています。各学校においては、授業の改善と評価の改善を両輪としながら、教師が児童・生徒の学習状況を的確に捉え、その結果を児童・生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる、いわゆる「指導と評価の一体化」の実現に向けた取組を進めていく必要があります。

本資料では、外国語科における「指導と評価の一体化」の実現に向けて、どのように単元を構成し指導と評価を行っていくか、その基本的な考え方を示すとともに、五つの領域ごとの指導と評価の事例を示して解説しています。また、参考となる資料を適宜参照できるようにしています。外国語科における「指導と評価の一体化」の推進に、本資料を御活用ください。

目次

1 「指導と評価の一体化」に向けた単元構成	2
2 単元の目標の設定について	3
3 単元の評価規準の設定について	4
4 単元の指導と評価の計画について	5
5 中学校事例	
① 「読むこと」の指導と評価の事例（第2学年）	6
② 「話すこと[発表]」の指導と評価の事例（第2学年）	8
③ 「書くこと」の指導と評価の事例（第1学年）	10
6 小学校事例	
「話すこと[やり取り]」の指導と評価の事例（第5学年）	12
7 「指導と評価の一体化」に向けた指導と評価の改善のポイント	
(1) 指導の改善のポイント	14
(2) 評価の改善のポイント	15
8 参考資料一覧	16

本資料では、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動」（国立教育政策研究所 令和2年3月）を「**小学校学習評価資料**」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語」（国立教育政策研究所 令和2年3月）を「**中学校学習評価資料**」と表記しています。